

第45回 2013（平成25）年
社会保険労務士試験

T A C 社会保険労務士講座

本試験分析

この資料は、第45回本試験実施後、受験者の皆様から寄せられた復元解答を元に、択一式及び選択式試験の平均点、得点分布等を算出し、分析結果を記載したものです。

本試験問題の「解答・解説」「科目別のコメント」「択一式問題の難易度一覧表」等につきましては本試験終了後に実施した**解答解説会時配布資料**又はT A C 社会保険労務士講座の**情報誌『合格への招待』**2013年臨時増刊号に掲載しております。

途中の分析過程を省き、総合ラインのみ確認したい方は、P.8へ

※2013（平成25）年「本試験解答分析サービス」を利用された皆様へ

画面上に表示されている点数・利用者数等と、当資料で用いている点数・利用者数等は異なっています。これは、「A, A, A, A…」 「1, 1, 1, 1…」といった本試験において実際に解答されているものとは異なると予想されるものや免除科目のある方等をデータ上から除き再集計しているためです。あらかじめご了承ください。

第45回社会保険労務士試験 分析資料

択一式試験

●TAC本試験解答分析サービスより

年	基安	災徴	雇徴	常識	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2013(H25)	7.1	6.6	6.4	6.3	5.9	6.3	5.8	44.4	?	?
2012(H24)	6.6	7.1	5.5	5.6	7.8	6.9	6.1	45.5	46	7.0
2011(H23)	6.9	7.4	6.4	5.5	7.2	5.9	5.6	44.8	46	7.2
2010(H22)	7.6	7.0	7.6	5.3	6.6	6.1	6.6	46.7	48	8.6
2009(H21)	6.8	6.1	6.2	5.8	6.3	6.6	7.1	44.9	44	7.6
2008(H20)	7.0	6.6	7.1	7.3	5.3	5.8	7.3	46.4	48	7.5
2007(H19)	5.4	6.4	7.2	6.7	6.4	6.7	6.1	44.9	44	10.6
2006(H18)	4.7	7.1	6.9	5.4	5.5	4.4	6.7	40.8	41	8.5
2005(H17)	5.6	6.1	6.9	5.1	5.6	6.0	6.1	41.5	43	8.9
2004(H16)	6.8	6.0	7.7	6.1	4.1	3.7	5.0	39.5	42	9.4

※白抜き数字は、3点可とされた科目

※2006年 健保問8-BD、厚年問3-BDは本試験実施後、複数正答として採点・集計→本試験結果発表後の正答（健保問8-B、厚年問3-D）を反映し再集計

※2006年 厚年問8は本試験実施後、全員正解として採点・集計→本試験結果発表後の正答（厚年問8-B）を反映し再集計

※2009年 国年問8は正答なし。全員加点。

※2010年 社一問7、健保問2、国年問10は正答なし。全員加点。厚年問10-AB、国年問7-CEは複数正答

※2011年 災徴問8-CEは複数正答

■□■今年度の択一式試験の特徴及び従来との比較■□■

◇択一式平均点は昨年を下回り、2007(H19)、2009(H21)、2011(H23)とほぼ同水準であった。

◇昨年と比較すると、基本問題の占める割合が下がり（64%→58%）、応用問題の占める割合が高くなっている（27%→33%）。難問の比率は昨年同様（9%）であったことから、応用問題の比率が上がったことで平均点が下がったと考えられる。

◇昨年に引き続き、組み合わせ問題での出題が見られた。

◇最も平均点の高い科目は、[基安]の7.1点、最も低いものは[国年]の5.8点であった。

●点数の分布割合等

(単位：％)

	基・安	災・徴	雇・徴	常識	健保	厚年	国年
10点	6.6	2.6	2.1	0.2	0.8	2.3	0.6
9点	15.4	9.3	7.8	5.0	6.7	10.4	5.1
8点	21.5	19.5	18.6	18.5	13.0	19.2	14.7
7点	21.7	24.4	24.2	25.3	19.5	19.9	19.6
6点	16.3	19.5	19.6	23.4	19.7	17.1	20.8
5点	11.0	13.2	13.3	14.7	18.1	11.7	15.8
4点	4.8	6.3	7.6	7.5	11.5	8.0	11.0
3点	1.9	3.6	4.2	3.7	6.0	5.3	7.2
2点	0.6	1.2	1.8	1.3	3.7	3.8	3.2
1点	0.2	0.4	0.6	0.4	0.8	1.8	1.6
0点	0.0	0.0	0.1	0.1	0.2	0.4	0.3

3点以下割合	2.8	5.1	6.8	5.5	10.7	11.4	12.3
--------	-----	-----	-----	-----	------	------	------

選択式試験

●T A C本試験解答分析サービスより

年	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年	計	合格点	合格率
2013 (H25)	3.9	1.9	3.6	3.3	1.9	2.1	3.8	4.4	24.9	?	?
2012 (H24)	4.0	4.8	3.8	4.1	2.7	3.6	2.9	4.3	30.2	26	7.0
2011 (H23)	3.4	2.4	4.3	2.8	2.6	4.2	3.7	3.5	26.9	23	7.2
2010 (H22)	3.7	4.0	4.5	3.6	3.0	3.5	2.8	2.3	27.3	23	8.6
2009 (H21)	2.7	3.4	4.5	2.9	4.0	4.7	4.1	4.4	30.7	25	7.6
2008 (H20)	3.6	3.6	4.3	3.3	4.3	2.2	3.2	3.1	27.7	25	7.5
2007 (H19)	4.3	4.0	4.7	3.2	3.6	4.7	4.7	3.8	32.9	28	10.6
2006 (H18)	3.7	2.5	4.0	4.3	2.5	4.1	3.6	4.2	28.9	22	8.5
2005 (H17)	2.4	3.9	4.6	3.5	4.3	4.7	3.6	4.0	31.0	28	8.9
2004 (H16)	3.5	4.4	4.4	4.0	4.1	2.7	3.9	3.6	30.7	27	9.4

※白抜き数字は2点（2004年及び2008年の健保、2010年の国年は1点）が認められた科目

※2006年社一…当初「解なし」で採点・集計→本試験結果発表後の正答を反映し再集計

■□■今年度の選択式試験の特徴及び従来との比較■□■

- ◇選択式の平均点は24.9点となり、過去10年間で最低の点数となった。
- ◇平均点が4点以上となる科目が「国年」の1科目のみであり、得点源となる科目がほとんどないことが平均点を引き下げていると考えられる。
- ◇点数が伸びていなかった科目は「労災」「社一」「健保」

●点数の分布割合等

（単位：％）

	基安	労災	雇用	労一	社一	健保	厚年	国年
5点	22.9	0.4	36.6	10.2	1.1	1.9	32.5	66.0
4点	48.9	2.9	26.8	35.2	6.4	10.2	35.4	19.4
3点	22.3	20.1	14.9	34.9	20.4	23.2	20.0	7.6
2点	4.9	45.2	10.8	15.8	34.2	32.3	7.5	4.1
1点	1.0	25.9	6.8	3.4	26.3	23.7	3.6	2.0
0点	0.1	5.5	4.1	0.5	11.6	8.8	1.0	0.9

2点以下割合

5.9	76.6	21.7	19.7	72.1	64.7	12.1	6.9
-----	-------------	------	------	-------------	-------------	------	-----

【総合得点の検証】

●択一式の総合得点

択一式の総合得点は、44.4点と2007（H19）、2009（H21）、2011（H23）とほぼ同水準であった。

2007（H19）、2009（H21）は合格基準点が44点とここ数年の合格基準点と比較して、低かったことを加味すると、本年の合格基準点は、昨年の46点よりも引き下げられる可能性がある。ただし、2011（H23）は昨年と同様に46点が合格基準点とされたことから、例年のように7～8％台の合格率とするのであれば、選択式の補正科目数によって択一式の基準点が影響を受け、昨年並みの46点前後となる可能性が最も高いと思われる。選択式、択一式の両方を加味したものについては後述する。

●選択式の総合得点

次に選択式の総合得点について触れることとする。

過去のデータをみると「28点」を基本とし、補正を行う場合にはそれを下回る基準としている可能性が高い。

＜参考：選択式総得点が28点を下回った年＞

	解答分析の平均点	本試験結果
2004（H16）	30.7点	27点
2006（H18）	28.9点	22点
2008（H20）	27.7点	25点
2009（H21）	30.7点	25点
2010（H22）	27.3点	23点
2011（H23）	26.9点	23点
2012（H24）	30.2点	26点
2013（H25）	24.9点	？

今年は平均点が24.9点と、過去に例をみないほど低い平均点である。

2004（H16）は表の通り「27点」が合格基準点とされ、[健保]で1点補正が行われた年であり、2009（H21）は「25点」が合格基準点とされ、[基安][労災][厚年]において2点補正が行われた年である。逆に、2005（H17）のように[基安]で2点補正が行われたにもかかわらず合格基準点は28点とされた年もあるが、全体的にみれば、補正科目が複数になる場合は合格基準点が28点より引き下げられる可能性が高くなる。

【合格基準補正（いわゆる救済）の可能性について】

●択一式の合格基準補正の可能性

今年の択一式試験については、全科目のうちに極端に平均点が低い科目はなく、いずれの科目についても、補正が行われる可能性は極めて低いと思われる。

●選択式の合格基準補正の可能性

今年を選択式試験については、全科目のうち〔労災〕〔社一〕〔健保〕の点数が低いものとなっていた。

〔労災〕〔健保〕は、かなり細かい論点まで踏み込んだ出題であった。また、〔社一〕については、久々の厚生労働白書からの出題であったが、文脈から推論して空欄を埋めることが困難な内容でありいずれも高得点が難しい出題であった。

〔労災〕〔社一〕は2点以下割合が7割を超えており、〔健保〕についても2点以下割合が6割を超えている。

下記〈参考〉の数字を見てもわかるように、上記3科目の2点以下割合は、1点補正の行われた、2008(H20)の健保(62%)、2010(H22)の国年(58%)を上回っており、上記3科目について補正措置がとられる可能性がある。

しかし、過去の事例を見てみると、2011(H23)においては平均点が低く、かつ、2点以下割合が多い〔労一〕の補正を行わずに、平均点が高く、かつ、2点以下割合が少ない〔基安〕〔厚年〕〔国年〕が補正されたこともあることから、平均点や2点以下割合のみを基準として補正が行われるとも限らない。

＜参考：過去の本試験で2点以下割合の高かったもの…解答分析サービス資料より＞

- ・2004(H16)…健保**44%** → この年は健保1点とする補正あり
- ・2005(H17)…基安**48%** → 基安2点補正
- ・2006(H18)…労災**49%**、社一**54%** → 両科目を含めこの年は計5科目補正
- ・2008(H20)…健保**62%** → 健保1点補正（他に国年・厚年2点）
- ・2009(H21)…基安**43%** → 基安の他、労災、厚年
- ・2010(H22)…国年**58%**、厚年**41%** → 国年1点、厚年2点補正（他に社一・健保2点）
- ・2011(H23)…労災**51%**、労一**28%**、社一**48%** → 労災、社一2点補正（他に基安・厚年・国年2点）
- ・2012(H24)…社一**41%** → 厚年2点補正

●他科目の合格基準補正の可能性

過去の本試験をみると、選択式については、平均点が高め、あるいは2点以下割合が低い科目であっても補正が行われたことがある。多くの受験者が正解し、2点以下の受験者が少ないにもかかわらず補正措置がとられることについては違和感があるが、過去の解答分析サービス結果より推測すると、これは「平均点が低い」「2点以下の人数が多い」等とは異なる理由で補正が行われていたことが考えられる。

合否ラインを決める際に、**一定の合格者数又は合格率の確保**を前提としているので

あれば、本年度の[雇用][労一]のように平均点は高めだが2点以下割合が[健保]に次いで高い科目の補正により、合格者数や合格率の微調整（合格者数〇人前後、〇%前後を維持）が行われる可能性もないとは言えない。

<参考：2点以下割合が低い（又は平均点が高め）にもかかわらず補正が行われたもの>

- ・ 2003 (H15) … 労一**20%**、社一**14%**、厚年**19%**、国年**22%** → 計4科目補正
- ・ 2006 (H18) … 基安**13%**、雇用**12%**、厚年**15%** → 他に労災、社一を含め5科目補正
- ・ 2009 (H21) … 厚年**11%** → 他に基安、労災を含め3科目補正
- ・ 2010 (H22) … 健保**15%** → 他に社一、厚年、国年を含め4科目補正
- ・ 2011 (H23) … 基安**17%**、厚年**15%**、国年**22%** → 他に労災、社一を含め5科目補正
- ・ 2012 (H24) … 厚年**34%** → 厚年より2点以下割合が高い社一は補正なし

選択式・択一式を加味した総合的な合格基準分析

まずは**本試験結果と解答分析サービスの結果**等について触れていくこととする。

	回数	本試験				解答分析サービス		
		受験者	合格者 (a)	合格率		提出者	合格者 (b)	※ (b/a)
2004 (H16)	36 回	51,493	4,850	9.4%		2,791	1,210	24.9%
2005 (H17)	37 回	48,120	4,286	8.9%		2,882	1,177	27.5%
2006 (H18)	38 回	46,016	3,925	8.5%		1,940	794	20.2%
2007 (H19)	39 回	45,221	4,801	10.6%		2,605	1,278	26.6%
2008 (H20)	40 回	47,568	3,574	7.5%		2,587	862	24.1%
2009 (H21)	41 回	52,983	4,019	7.6%		2,597	1,043	26.0%
2010 (H22)	42 回	55,445	4,790	8.6%		3,000	1,315	27.5%
2011 (H23)	43 回	53,392	3,855	7.2%		2,671	925	24.0%
2012 (H24)	44 回	51,960	3,650	7.0%		2,521	862	23.6%
2013 (H25)	45 回	?	?	?		1,885	?	?

※ 本試験合格者のうち、解答分析サービス提出者が占める割合 (b/a)

解答分析サービス利用者の合否状況を表に当てはめると上記の通りとなる。解答分析サービスは、本試験全受験者のごく一部が利用するにすぎないが、過去の結果を見ると毎年、ある特定の層の方がこのTACの解答分析サービスを利用していることが分かる。例えば、ボーダーライン上、又はその前後の得点の方の利用者が圧倒的に多い。



表の※…本試験合格者のうち解答分析サービス利用者が占める割合（以下「利用者割合」という。）を指す。例年20～27%前後で推移しているが、全体的にみると、提出者数が多い年の方が利用者割合は高く出る傾向にある。今年の提出者数は1,885人と提出者数が比較的少ない年となっている。そこで、直近で最も提出者人数の近い2006 (H18) の受験者数及び利用者割合 (20.2%) を基準とし、同年の合格率 (8.5%) を昨年と同水準の合格率 (7%前後) と修正し、合格率をある程度抑えるという近年の本試験の傾向を加味した場合、利用者割合が15%前後となると仮定して今年の合格ラインを探っていくこととした。

<資料>

(単位: %)

		択一式点数				
	選択式点数及び補正	44	45	46	47	48
①	選択式 26／補正なし	2.0	2.0	2.0	1.8	1.6
②	選択式 24／労災2、社一2、健保2	15.3	14.9	14.1	13.1	12.2
③	選択式 24／労災2、社一2、健保1	17.0	16.6	15.6	14.3	13.3
④	選択式 24／労災2、社一1、健保2	18.1	17.6	16.5	15.1	14.0
⑤	選択式 24／労災1、社一2、健保2	18.8	18.3	17.3	16.0	14.9
⑥	選択式 23／労災1、社一1、健保2	22.7	21.9	20.6	18.9	17.3

※択一式については各科目 4 点以上として集計

この表から、以下のことが言える。

1. 「補正なし」としたときは、一定の合格者数・合格率の確保が難しいことが考えられる。
2. P 5 で述べたとおり、補正科目が多くなる場合、選択式の総得点基準は引き下げられる傾向を加味し、「補正なし」と「補正あり」の場合の選択式総得点に差をつけた。
3. 補正が有力視される労災、社一、健保を 2 点補正とした場合、択一式総得点 44 点としたときに仮定した合格率に最も近くなるが、補正科目が多くなる場合、択一式の合格基準が引き上げられる可能性があり、45 点あるいは 46 点のラインも十分に考えられる。
4. 労災、社一、健保のうち 1 科目を 1 点補正した場合、いずれも仮定した合格率をやや上回ることとなるが、一定の合格者数・合格率を確保する場合にはいずれかの科目で 1 点補正が行われる可能性もある。

「合格基準の設定」や「補正」については、P 6 から触れた通り、補正は単に「平均点が低い」「2 点以下の人数が多い」といった科目間のバランスを調整するだけではなく、合格者数や合格率の調整として用いられていることが考えられる。実施者側が、昨年と同様に合格率をある程度抑え 7 % 以下とするのであれば、前記 3. で述べたいずれかの合格ラインが有力であると考えられる。また、仮に 1 点補正の可能性を昨年及び今年の本試験の出題傾向で考えるならば、問題文を読み取る力、文脈から考える力を問う問題が増えており、昨年の選択式「社一」のように、文脈から読み解くことで対応する形式の問題は補正の基準を厳しくすることが考えられ、この場合、同タイプの問題である「労災」がその対象となるであろう。そこで、残った「健保」「社一」でみた場合、平均点が低く、1 点以下割合が高い「社一」が候補に挙げられるが、これまで触れてきた通り、調整により「健保」が対象となることも考えられる。

毎年本試験が終わると感じることであり、毎年のように述べていることだが、実施者側の重要視する基準で合格ラインが毎年のようにかわったり、不透明な基準の補正により受験者の合否が左右されない、受験生の努力がきちんと報われる社会保険労務士試験が当たり前に行われる日が来ることを切に願うものである。